

AA

日本ニューズレター No.83

堀の中の仲間へメッセージを運んでみませんか！



今年に入ってから矯正関連施設である刑務所へのメッセージが忙しくなりつつある。矯正施設への関心を掘り起こしてくれたのは、94年（H6）5月に来日したニュージーランドWSM評議員を囲んだワークショップで分かち合われた矯正施設の話が契機になっている。

日本と似たような規模であるニュージーランドのメンバーが矯正施設へメッセージを運んでうまくいっている話に刺激された日本の数人のメンバーが、自分達の近くの矯正施設へのアプローチを手探りで始めた。

浜松や豊橋の保護観察所の職員との面談や関東の更生保護会（更生保護施設）へはAAメンバーが積極的に接触していること等の実績を踏まえて、豊橋刑務支所や静岡刑務所、富山刑務所等の職員との接触が試みられた。

7月には“第一回矯正に関する（刑務所へのメッセージなど）チーム作りの話し合い”が浜松で行われた。

9月には“第二回矯正に関するチーム作りの話し合い”12月に行われた“第三回矯正に関するチーム作りの話し合い”の中で、この“話し合い”を「矯正施設委員会」という名称に改めると共に、個人レベルの活動からネットワークを組んだ活動へ移行していくことが確認された。

翌年（H7）は、矯正施設委員会の会合を大宮や美浜、長野で開催して仲間への協力を呼び掛け続けた。中四国地域集会での矯正施設委員会についての分かち合い、法務省保護観察局発行の「更生保護」6月号に森岡医師の「アルコール依存症とはどんな病気か」が掲載され、この中で矯正施設委員会のことも取り上げていただいた。

平成8年に常任理事会が発足するに伴い、病院施設委員会の小委員会として「矯正委員会」として全国展開していくための路線が敷かれた。

その年の8月に府中刑務所の職員との面談が実現し数人のメンバーで広報を試みたが、所内でのメッセージが実現するまでには更に1年の時間が必要だった。

翌年の夏から始まった府中刑務所へのメッセージが2年経った昨年の11月に、東京矯正管区の行刑施設の教育担当者を対象にした酒害教育研究会が府中刑務所で開催された。管内の17行刑施設から8施設12名の担当者を初めとして矯正局や東京矯正管区の職員5名が集まり、府中での教育プロ

グラムについての研修を行い「AAのモデルミーティング」も実際に体験していただいている。このような経過を経て、今年初めから横浜刑務所や横須賀刑務所へのメッセージが始まり、7月からは前橋刑務所でも始まっている。後半には市原刑務所でも始まる模様である。

“仲間でなければ分かち合えない部分がある”ということについての関係者の方々のご理解が深まった結果であろうと思われる。

現在の法体制の元では「刑務所へメッセージを運びたい」という熱意だけでは通じない部分……曜日や時間帯、性別の規制、前歴の有無、履歴書の事前提出等……があります。しかしながら「出来るところから始める」ことで実績を積み重ねていけば、いつかは風通しがよくなっていくことは外国の例を挙げるまでもなく自明の理であろう。

現在、関東地域で始まっているメッセージについて概観すると、メンバーが参加することの障害になっていることは、曜日と入所制限であろうと思われる。水（前橋）金（府中、横浜）土（横須賀）となっている。仕事を持っている仲間にとって参加しにくい面があるのではなからうか。そして、入所経験のある人への規制がある。実績を積み重ねることで将来的には解消されるとしても今はまだ無理である。このような条件の下で、事前に登録申請をしてもらい、認可が得られた仲間の中から2～3名が指定された日時にメッセージを届けている。今のところ登録されているのは20名足らずで、しかも各刑務所ごとに登録が必要になる。“地域のことは地域で…”ということは、“地区のことは地区で…”ということにも波及してこることは避けられないと思われる。

首都圏の様にメンバー数の多い所ではなんとか対応できても、それ以外のところではどうなるのであろうか。

東京矯正管内（関東甲信越と静岡）だけでも16の刑務所と1つの拘置所が、その他の地域でも相当数の刑務所があり、所内の教育資料としてAAの書籍・パンフレット類を参考にしたい、という要請に基づいて数ヶ所の刑務所には郵送している。このような要請に各地域、各地区で対応することができ得るのか、メッセージを運ぶというサービスを継続する為には、多くのやらなければならないことがあると考える。関東甲信越地域では“地域のことは地域の仲間て処理しよう”を合い言葉に、「一人では難しいが、仲間と一緒にならぬ」ということの現れとして矯正施設へのメッセージ活動を進めるためのネットワーク作りが始まっている。

仲間の皆さん、一緒にやってみませんか！

前B類常任理事。現常任理事会広報委員会委員 池田

AA日本出版局 新刊案内「回復への道PART3」—それぞれの場合—

特集—若者の場合 A5版 203ページ 1,200円

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F JS0内 TEL. 03-3590-5377 FAX. 03-3590-5419

AAインターナショナルコンベンション 2000年 ミネアポリス

ミネアポリス世界大会に参加して

ジョニー・

AAの65周年にあたる西暦2000年の今年、5年毎に開かれる世界大会は、アメリカ中部の美しい街ミネアポリスで6月29日から7月2日まで4日間開かれた。全世界から5万3千人あまり、日本からも団体参加だけで130人あまりが参加し、大成功だった。地元の二つのテレビ局も新聞も、無名性(アノニミテイ)を尊重して報道は控えめだったが、最終日のテレビのニュースでは、4日間で470億円ほどが地元へ回り込み、特にコーヒーショップは通常の4倍の売上、AA大好きという店主の顔が大写しとなり、逆に酒屋さんはあがりだったと報道された。この4日間、街はAAの名札をつけた人たちで占領された感じで、AAと関係のない一般の人たちも極めて好意的だった。

大リーグのミネソタ・ツインズ、アメフトの名門バイキングスの本拠地のドーム球場では、第一日目に参加各国の旗の入場行進等のセレモニーに続いてオープニングのビッグミーティングが開かれた。私は仕事の都合で参加できなかったのだが、3名のスピーカーの一人に日本人の仲間が選ばれたという。オールドタイマーミーティングを除けば、ビッグミーティングでスピーカーとなったのは全参加者のなかでたった6名である。そのうちのひとりに日本の仲間が選ばれ、世界の仲間の前で分かち合いができたことを、私はたいへん誇りに思っている。オールドタイマーのスピーチやダンスでは連日3万人以上を集め、さらに主会場となった国際会議場、その近所のコンサートホールでも、連日、大小のミーティングが開かれた。野外でのイベントも含めて、これだけの大会議を4日間何の事故もなくやりおおせた実行委員会、それを支えた各国の支援体制、それもすべてAAのメンバー、つまりほとんどが一度はドン底を経験した仲間たちが、これだけの力を全世界に向かって見せつけたことに私はたいへんな感動を覚えた。日本語のミーティングは、2日目に2回、3日目に1回、各1時間半ずつ行われ、3人ずつのスピーカー、それに司会者が自己紹介をかねたスピーチをいれて、実質4人のスピーカーズミーティングの形を取った。80人ほど入れる会場には常に十数人の外国人が出席し、その数は後半になるにつれ増えていった3日目のミーティングは、日本でAAにつながったアメリカ人2人、共にビジネスマンとしての付き合い上の必要から飲んで底を突き、AAにつながった人たちの話が入り、また、2日目のミーティングでは、余った時間に手を挙げて壇上に上がったオーストラリア人とアメリカ人からの分かち合いがあった。このように、日本語ミーティングでは、日本人、日本という国の特性を中心にしながら、国際性を加味したものとなり、アルコホリズムの万国、万人共通の病気としての兆候を再認識するのに役立ったと思われる。

さて、以下は私のまったく個人的な感想。ビッグブックのどこかに、力の無さ、それが問題と書いてあったように思うが、今回の最も強烈な印象は、どの人も内に強いパワーを秘めており、そういう人たちが集まって組織化された集団の力を発揮するものになったのではないと思う。仲間の誰かが言っていたように、底を突くときには、まさに急坂を転げ落ちるように、自分ではどうにも止めようにも止められない急激な落ち込み方をするけれど、ソプラエティが5年を過ぎるころから、今度は自分でもどうにもわからない力がついて、

約一年ほど前に、お知らせしたAAインターナショナルコンベンションが、去る6月29日～7月2日、ミネソタ州ミネアポリスにおいて、世界各国の5万余りのメンバー、友人を集めて開催された。グループメンバーに呼びかけ申し込みされた方々が、日本から関西空港発を含めて130人余り、それぞれに経験の分かち合いをし、皆、無事帰国された。スタッフに無理をお願いして、休みを取り私も参加することが出来たがすばらしい感動と貴重な経験を与えてもらった。感謝するのみである。参加者への財務報告が終了していないので、詳しいことは次の機会に譲るとして、今回は数多いプログラムの中で、日本語ミーティングの通訳の役割を担ってくれた仲間のお話をお届けする。

JSO 野崎

急坂を駆け上がるように素晴らしい自分が内から現れてくるのではないかと。私は通訳として参加したが、自身もアメリカでアル中となり、アメリカでAAとつながった。だから、第1から第3ステップで、神や愛という言葉を連発するミーティング、そしてあとのほうのステップでは神の意志の実現だの伝達だのと言われると、たいへんな違和感を覚えたものだ。この歴史、文化、宗教の違いからくる違和感はいまだに消えず、それに目をつぶってそれを受け入れ、怖れと闘い、スリッパをしないようひたすら防戦一方のプログラムを生きている。いや、生きていた、と今日からは過去形で言うことができる。日本の遠い各地から、さまざまな背景を背負ってスピーカーとして参加した人たち、殊に女性の方々の真摯に自分を見つめ、包み隠さず犯した罪に向かい合い、自分と家族、友人、さらに未だに苦しむ弱い立場の人々と一緒に歩んでいきたいという、すっかり昔と変わってしまった自分への驚き。そうしたドン底から這い上がりながら、まったく自己中心的だった心が他人のために報いを与えようと変わっていく過程を驚きを持って、これは自分ではない、何かの限りなく優しい力が自分の中に働きかけているのだ、と語りかけるその力強さ。こうしたやむにやまれず、どうか自分の得た何かを聞いて欲しいという真剣な語りには、私は何度か込み上げる感情を抑えることができず、通訳がとまってしまったのを覚えている。私だけではない。会場にいたアメリカ人の方々を含めて、何人かの人が涙をぬぐっているのを私は見ている。私にとって何年にもわたってわだかまりの基だった、神とか愛とかという言葉飛び越えて、確固とした、まさに日本というキリスト教とは無縁な環境の中から、見事なステップを踏んで、人類共通の高みに達した人たちに、私は初めて会えたような気がする。そうした人たちは、光り輝く僧侶の衣装をまとっているわけでもなく、博士号や教授の資格を持った人たちでもない。ごくごく普通の人たちだった。アメリカのミーティングでよくきく、神は誰かの口を通して語りかける、というのはこのことだったのだろうか。

私は長い間、奇跡というのは、自分から逃げていった妻や子供たちが、ある日、笑顔で戻ってきて、一緒に暮らしてくれるようになることとか、心の病に侵された弟が、ある日、突然正常に戻ってくれるようなことだと思っていた。今では、奇跡とは、まったく想像を超えた優しさが、ドン底まで落ちたアルコール依存症たちの心の中に生まれ、他人のために何かをしたい、共に歩み、共に泣きたいという心が変わっていく

ことだと思っている。それは、あのミネアポリスで聞いた素晴らしいスピーカーの告白、バスの中や食事をしながら聞かせていただいた静かな分かち合い、そうしたのから私の心の中に芽生えたものだ。そうした変化を、日本の仲間からもらったことに、静かな喜びと感動を覚えている。食堂で一緒になったハワイから来ていたアメリカ人の年寄りの女性たちが、日本の女性たちにぜひ伝えて欲しいと言われたことは、女は飲んだだけでも急激に年を取るけれど、スリッパするともっと醜くなるからということだった。しかし、今回合った

日本の女性たちはどの人も、輝くように美しく、内からの魅力に満ちあふれていた。私は、日本からの仲間と少しでも長く一緒にいたくて、ミネアポリスからの出発を一日延ばした。そして最後の晩遅く、皆との話し合いを終えて部屋に戻り、ドアを後ろに閉めたとき、ああ自分は一人ばっちではない、酒とも一日一日遠ざかり、自分の心の安らぎが初めてきてくれたような実感が湧き、思わず、どうもありがとうございますとつぶやき、そのままベッドに倒れこんで、それこそ何年ぶりかでぐっすりと休むことができた。

2000年上半期財務状況について

AAの収入源であるメンバーからの献金に感謝申し上げます。

毎月各グループに、JSOより収支計算書・貸借対照表が送付されておりますが、2000年上半期の収支状況及び今後の課題について、報告させていただきます。

1. 収入について:

収入は表のとおり、献金、印刷物頒布、書籍頒布(再版対象書籍)、BOX頒布、雑収入で賄われております。

年間収入予算額40,000,000円に対し、上半期6ヶ月間で20,435,881円と、ほぼ年間予算の半分の収入があり、目標額をなんとか達成出来ありがとうございます。各科目毎の収入は目標に対して、献金47,8%、印刷物51,2%、書籍59,5%、BOX48,5%、雑収入42,3%の達成率です。内訳を見ますと、献金・BOX頒布は50%以下です。雑収入は未知)書籍頒布はビッグブック改訂版の発行により約60%となっております。

2. 献金について

献金の内訳は、グループ献金、個人献金、誕生献金、イベントなど、ニュース・レターとなっております。

献金月額目標1,350,000円に対し、上半

期では平均は月平均1,287,182円と目標に達成しませんでした。

昨年実績と比較すると、上半期だけでは昨年より伸びておりますが、昨年実績欄を見ていただければお分かりですが、下半期(特に12月・9月・11月・12月)評議員、常任理事の皆さんの呼びかけに、メンバーの皆さんが応えていただいた結果多くの献金をしていただき、年初の目標額を達成する事ができました。今年度も上半期に増して伸びる事を期待しております。

3. 支出について

毎月各グループに送付しております収支計算書の、対予算比の欄を見ていただければお分かりのとおり、上半期終了の段階ではほぼ予定通りです。

4. 今後の関連点

収入予算に対して、上半期約半分の収入が達成できましたが、年度当初予算期しなかった支出が必要となりました。

7月の常任理事会議事録でも紹介があると思いますが、永年JSOのスタッフを務めていただきました山本さんが退職されることになりました。後任のスタッフが、業務の習得引継等のため山本さんとの重複雇用期間が必要に

なります。

また、事務機器の更新、仲間が作成して使用していたJSO財務処理ソフトを市販ソフトに変更して行くことになりました。よって、当初予算より支出が増えますことが避けられない状況となりました。

2. 財務よりのお願い

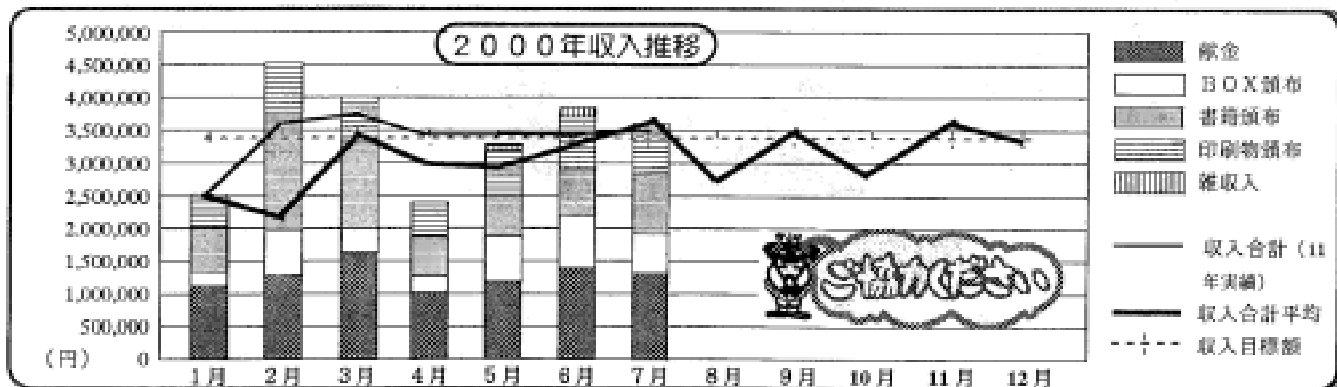
上記事情により出費の多い折りですがメンバーからの献金のご協力をお願い致します。また、個人献金についても赤い振込用紙を郵便局に持参していただければ手数料なし(手数料はJSO負担)で振込できます。ニュース・レターを1人1人が購入していただく事で献金になります。

書籍についても、上半期ビッグブック改訂版発行により増えましたが、他の書籍については、伸び悩んでおります。まだ苦しんでいるアルコールへのメッセージに、仲間へのプレゼントに、イベントの景品に是非ご利用をお願い致します。

1999年決算において繰越収支差額での赤字決算となり、運営準備基金の運用でカバーしました。今年度収支差額で補填出来るよう、そして少しでもJSOが安定して運営できますよう、メンバー1人1人がJSOを支えていくために献金のご協力をお願い致します。

収入の部

| CODE | 科目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 当年合計 |
|------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 100 | 献金 | 1,136,152 | 1,306,164 | 1,705,475 | 982,036 | 1,166,292 | 1,454,232 | 1,238,923 | | | | | | 9,010,274 |
| 210 | 印刷物頒布 | 495,950 | 666,010 | 315,510 | 221,400 | 613,460 | 757,070 | 596,230 | | | | | | 3,665,830 |
| 220 | 書籍頒布 | 330,080 | 1,847,680 | 1,167,280 | 623,100 | 683,740 | 713,180 | 845,200 | | | | | | 6,345,960 |
| 230 | BOX頒布 | 506,250 | 704,750 | 775,000 | 578,250 | 699,750 | 719,500 | 631,750 | | | | | | 4,615,250 |
| 110 | 雑収入 | 4,810 | 11,708 | 27,232 | 4,200 | 76,600 | 85,020 | 171,850 | | | | | | 383,520 |
| 250 | 再版引当金振り戻し | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | 0 |
| | 収入合計 | 2,525,242 | 4,536,312 | 3,984,497 | 2,409,286 | 3,239,442 | 3,734,702 | 3,604,953 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 24,040,834 |
| | 収入目標額 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 3,334,000 | 40,000,000 |
| 915 | 収入合計(11年実績) | 2,498,451 | 3,173,423 | 3,320,097 | 3,029,679 | 2,920,248 | 3,269,225 | 3,660,168 | 2,618,197 | 3,450,441 | 2,785,303 | 3,676,470 | 3,285,797 | 36,707,661 |
| | 収入合計平均 | 2,525,242 | 3,530,777 | 3,684,017 | 3,365,334 | 3,340,236 | 3,405,980 | 3,434,405 | | | | | | |



記念集會に 『感謝』



2月の寒い日、久しぶりに地域のイベントの実行委員会を手伝うつもりで準備委員会に参加した。地域の20周年記念集會である。予想以上に多数の仲間が参加していて正直、驚いたが、実行委員をやる気で参加した仲間が、その場に多数いたので、すぐに実行委員会が設立された。私自身は、もう一人の仲間と良い形で実行委員長選挙をしていただき、初めてイベントの実行委員長をさせてもらうことにもなった。すぐに開催日、開催場所も決まりスタートは順調に見えた。しかし、よくよく考えると開催までの時間は4カ月しかないという無茶苦茶なスケジュールで地域の記念集會をやるというのだから、すごい話である。えらいことを引き受けたと思いつつ、その日はセントラルオフィスを後にした。

今までに幾度かイベントの実行委員会に参加したが、今回は実行委員長として調整役に徹しようと思ったので各係の考えていること、実行していることに、できる限り口出ししないことを心懸けた。実行委員会は各係の進行の報告と委員会としての共通の理解を得る場と考えたかったので、過去の実行委員会のやり方をあまり重視せずにやったつもりである。また、過剰に職員に負担をかけることを排除したかったので委員会でやれることはできる限りやろうとした。そのためにも私自身は、全体の調整役に徹するつもりで動いた。

イベントの実行委員会では様々な事情で途中で抜けていく仲間がいるのだが、今回の実行委員会では全くなかった。これはすごいことだった。途中参加した仲間こそあれ、抜けていった実行委員がいなかったのは今まで経験がない。残念ながら途中で亡くなった仲間がいたが、飲まないで人生を全うした、その仲間への尊敬と感謝の意味を込めて私は実行委員会のレジュメに最後まで、その仲間の名前を残した。

委員会の話し合いが進む中、参加費・宿泊費・食費を極力、少なくしながらも記念品を贅沢にするために地域の定期刊行物の編集委員会に協力をいただいて記念品の一つとし、「20周年記念誌」を仲間の協力で編纂しもう一つの記念品にした。これは多くの仲間の協力のできたすばらしい記念品だった。

プログラム自身は時間がないといいながらAAの三つのレガシー(遺産)である「回復・サービス・一体性」をコンセプトにすべてのイベントを同時進行で開催するという、贅沢で多彩なプログラムを実行した。「回復」のイベントとして「ビッグブックミーティングとステップミーティング」。「サービス」のイベントとして「地域サービスの集い」をそして「一体性」のイベントとして「20周年記念集會」と「ヤング10周年記念集會」を。初日の「アトラクション」は

プログラム途中の楽しい息抜きとなった。

またアラノングループの方々も関西では始めてAAイベントの中でミーティングを開いていただき、専門家のドクターにはアメリカでAAが生まれるまでの歴史をスライドでもってお話しいただいたりとラウンドアップとは明らかに違うイベントとなった。

記念品と多彩さを狙ったイベント会場の費用により予算は膨らみながらも遅々として増えない参加申込に実行委員に「大丈夫か?!」という声も流れ始めたりした。「赤字が出ても参加した人達が喜んでくれれば、それでいい」と言いながら、実は私自身も定員に達しない状況に多少の不安を隠せていた。何しろすぐ後にアメリカでの65周年国際コンベンションが控えている。参加数は未知数だった。

結果的には100余名の宿泊者を含めて合計で180名を超える参加者となり「来てくれるの?」という不安は取り越し苦労に終わった。しかし5/17の申込締切をかなり以前から広報していたにも関わらず相変わらず出足の遅い参加申し込み実行委員会はギリギリまでドキドキの繰り返しで、一旦予約した宿泊数を減らしたり、1週間前になって殺到する申込に急ぎょ予約を増やしたりという状況に複雑な心境を隠せなかったのは私だけではなかっただろう。この点はいつも思うが、飲まないアルコールとしてもう少し「大人としての責任」を自覚するべきではなからうかと思う(各個人の事情は重々分かっているが)。

調整役に徹しようとした私は2日間、とにかく会場内を走り回るといって何とか、役割を終えることができた。

結局、開催までの時間があまりに少なかったために不十分な点が当日になって露呈し、多くの課題を残した。そのために参加した方々にご迷惑をおかけすることになってしまった。多彩なプログラムと多くの参加者により成功を実感できるイベントになったとは感じるが、時間がないことで無理を余儀なくされるのは実行委員の各人である。AAのサービスは納得できる自己犠牲(ほんの少しハードルの高いのが理想?)こそがステップ12活動の喜びを見いだせるように私は思う。今後このようなイベントは1年近い時間をかけてじっくりと取り組む必要性を痛切に感じた。

すべてのイベントを終えて梅雨の晴れ間が広がる中を帰る道すがら、睡眠不足と疲労感はゆっくりと満足感に変っていくのを感じた。「仲間と一つのイベントを作る」ことはミーティングだけでは得られない喜びがある。と言いつつも体力の落ちつつある体は正直で、その日はボタンキューだったが。

最後に関東甲信越から沖縄まで参加してくれたAAメンバーの方々、他地域からも参加頂いた専門家、家族の皆さま。急な日程にも関わらずミーティングを開いていただいたアラノン家族グループのメンバーの方々に心から感謝したい。まさに今回のイベントのテーマ通り。そして実行委員長という役割を与えてくれた実行委員会みんな、本当にありがとうございます。感謝です。

(実行委員長 八木)



AA日本ニューズレターNo. 83

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO)〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>